

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	竹田 宜人 (独) 製品評価技術基盤機構化学物質管理センター/横浜国立大学
② 立候補の理由と 抱負 (400 字程度)	当方は 2016 年度から本学会理事として、リスクマネージャ及び企画を担当させていただいた。任期中、リスク学辞典の編纂業務や 2018 年度学会大会(福島)の企画にも関与させていただき、得難い経験をさせて戴いている。リスクマネージャ制度については、資格制度の運用が厳しい現状ではあるが、リスク教育の母体としての機能を活用すべく、2018 年度は市民向け講座を開催した。当方の専門であるリスクコミュニケーション研究への貢献については、2016 年度立候補時に述べさせて戴いた、他学会や研究者と現場の連携については、まだ、端緒についてばかりであり道半ばである。よって、引き続き、理事の活動を通じてこれらの課題に向き合っていきたいと考えているので、微力ではあるが、本選挙に立候補するものである。
③ 本学会における 活動歴	平成 14 年入会。学会発表 8 回。企画セッション 4 回。原著論文掲載 3 回。 2016 年～2018 年本学会理事。リスクコミュニケーション TG 世話人。
④ 研究歴・職歴等 (100 字以内)	1978 年 広島大学総合科学部 生化学 1982 年 筑波大学理工学研究科 放射化学 (理工学修士) 防衛省海上自衛隊、石川島システムテクノロジー、東京都庁勤務 2005 年 東京都立大学都市科学研究科修了 (都市科学修士、博士) 2005 年 (独)製品評価技術基盤機構着任 リスクコミュニケーションの研究を本格的に開始。 2011 年 横浜国立大学環境情報研究院客員准教授を兼務 リスクコミュニケーション講座を開講。

(書式2)【推薦者用】

① 推薦する候補者 名	竹田 宜人氏
② 推薦者の 姓名と所属	岸本充生 大阪大学データビリティフロンティア機構
③ 推薦理由 (400 字程度)	竹田氏は NITE で 10 年以上、現場ベースでの化学物質のリスクコミュニケーションを実践されてきた。2011 年からは大学教員を兼務し、実践だけでなく研究および人材育成にも注力されている。リスクコミュニケーションにかかわっておられる方はたいい 1 つの分野で活動されているが、化学物質、産業保安、原子力、自然災害といった多様な分野での長年の経験を持つ竹田氏の知見はとても貴重である。学会において 2012 年に発足したタスクグループ (TG) の 1 つである、

リスクコミュニケーション TG の世話役としても活躍している。また、2018 年 6 月に開催される春季シンポジウムの企画もお願いしている。リスコミに関する多彩な人脈と経験を有する竹田氏にはさらに活躍していただくにも、本学会の理事候補として推薦いたします。